
優しい小さな話。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優しい小さな話。

【Nコード】

N0807A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

安心して。みんな元気だよ。おまえの変わりなんてなりたくないから僕なりに与えていくよ。

真つ暗な子供部屋で、ベットの隣のスタンドと僕の吸いかけの煙草の明かりだけが、神秘的に、でもセンチメタルに、薄く柔らかく部屋を照らしている。

「・・・めでたしめでたし。

ほら、もう寝なきゃだめだよ。明日も学校なんだろう？」

「うん。わかった。おじちゃんは明日もきてくれるの？」

「おじちゃんの用事さえ早く終わればくるよ。」

「いつもそうやって言ってこないんだもん！おじさんの早くおわつてはばく信じない。」

僕はほほえみながら、今回はほんとだよ。

と言って、吸いかけの煙草の火を灰皿でもみ消して静かにベットから出た。

あけていた窓をしめて、ドアを開け、まだ小さな、小さな彼を見て、おやすみと言って僕は部屋から出た。

彼もおやすみとほほえみ、僕はドアを閉めた。

「いつもほんとにごめんね。

でも こうやっていつも家に来てくれてほんとに助かってるのよ。私もあの子も。」

別にどうってことない。

心からそう思った。

なぜなら、彼女は僕の友であり。

小さな彼はそんな彼女と、僕の死んでしまった親友の、愛すべき子なのだから。

僕の友の最悪な話をしよう。

彼女と出会ったときには、もうすでに結婚とゆう国に認められた恋人達だった。

僕の目には、巻き上げる風が渦となり、すべてに対して影響を与えていく春風のように見えた。

でも、彼女の夫は死んでしまった。

しかも、自らの足でマンションから空へと歩いた。そんな死に方だったらしい。

彼女はその時、僕と一緒にだった。

病院で妊娠を告げられて。

夫が帰ってくるまでにサプライズ的な小さなパーティの用意をしていた。

彼女は楽しそうに、前日の遊園地のデートの話をしてくれた。

パーティはもちろなくなかった。

葬式の後、彼女達の家に行くと、まだパーティのために作ったサラダが放置してあった。

でも、痛んでしまっていて、腐敗臭が僕の鼻を刺激し。泣いた。

それが、僕の友についての最悪な話。

もう朝の四時半だ、彼女と酒を飲んでしまい。

いつの間にか僕寝てしまったようだ。

僕は簡単な書き置きをして、家を出ようとし廊下を音もなく歩くと、まだ小さな彼の部屋が開いていることに気づいた。

中をのぞくと、彼女が優しく息子を抱きながら眠っていた。

僕はベットの縁に腰を掛けて、親友に話した。

僕は彼女に安らぎを。彼に愛情を。

僕の目が届く限り、与え、見守るよ。

返事はないが、変わりに部屋が朝日で優しく、青く、白くなっている。

（後書き）

よろしければ自分の書いたジェットコースターと青い空。も読んでいただけたらと思います。二つの話をリンクさせるかさせないかは読者様の自由とさせていただきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0807a/>

優しい小さな話。

2010年12月30日02時21分発行